

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	言語コミュニケーション文化研究科
大項目	5 学生の受け入れ (研究科)
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 国際化への対応を促進するため、正規外国人留学生の拡大を2割に高める。	→外国人留学生数。	B	A	A	A	A
2. 社会人学生の比率を3割に高める。	→在職英語教員の履修者数。海外において教育経験のある日本語教員の履修者数。	B	B	A	A	A
3. 入学定員を安定的に確保するため、入試制度の改革を行う。	→定員の充足率。後期課程の秋学期入試制度、関学生対象の推薦入試制度、留学生対象の研究生制度の実施。	B	A	A	A	A

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 国際交流委員会が中心となり、海外の有力大学3校(南京大学、北京第二外国語学院、湖南大学)との協定を締結し、ダブルディグリー制度を導入した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 上記の取り組みにより、一般入学の学生を加えた正規外国人留学生の人数は2013年度において20名を数えており、全在籍学生数の3割を超えている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後は新たに中国人民大学外国語学院、サンフランシスコ州立大学などの海外校との交換留学プログラムを運用開始し、正規外国人留学生の割合をさらに拡大していく予定である。	☆
		その他	☆

目標2	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 広報委員会を中心として入試広報に力を入れた。パンフレットやチラシを配布する範囲を拡大した結果、年3回梅田キャンパスで開催している入試説明会と公開セミナーにおける来場者数が大幅に増加した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年度の社会人学生の割合は46.5%であり、目標値を大幅に上回っている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 引き続き入試広報に力を入れ、現状を維持することに努める。	☆
		その他	☆
			☆
目標3	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 前期課程においては学内推薦制度を設けることにより、内部進学者の安定的確保を目指した。後期課程においては秋学期入試を導入することによって受験機会の増加を図った。また、各領域において科目名称を簡略化することにより、本研究科のカリキュラムをよりわかりやすく入学希望者に提示できるようにした。受験者が減少している言語文化学領域では、2014年度より複数の科目を新設した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 前期課程の学内推薦制度での入学者は、年平均2名程度と少ないながらも入学者を安定的に確保している。後期課程秋学期入試は、これまでの入学者は2名で、直近の2年間は0名と低迷している。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 言語文化学領域においては、特定の語種に縛られず、複数の言語・文化・社会に関わる研究対象をより学際的に研究できるよう、2015年度より新たに「多言語多文化学際プログラム」を設置する予定である。今後は、4つある領域をまたがって指導教員を選択できるようにするなど、領域間の垣根を減らし、より魅力あるプログラムを提供できるように検討を進めていく。	☆
		その他	☆
			☆
備考			☆

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【言語コミュニケーション文化研究科】		前期/後期課程	単位	2010	2011	2012	2013	2014	備考
指標1	入学定員	前期課程	名	30	30	30	30	30	・5/1現在
		後期課程		3	3	3	3	3	
指標2	志願者総数	前期課程	人	33	64	43	38	37	・当年度は5/1現在 ・前年度以前は秋学期入学を含める
		後期課程		12	5	4	5	2	
指標3	合格者数	前期課程	名	18	41	30	23	23	・当年度は5/1現在 ・前年度以前は秋学期入学を含める
		後期課程		11	4	4	4	2	
指標4	入学者数	前期課程	名	17	37	26	24	17	・当年度は5/1現在 ・前年度以前は秋学期入学を含める
		後期課程		10	4	3	4	2	
指標5	志願者倍率	前期課程	倍	1.1	2.1	1.4	1.3	1.2	・5/1現在 ・志願者÷入学定員
		後期課程		4.0	1.7	1.3	1.7	0.7	
指標6	入学定員に対する入学者数比率(5年間平均)	前期課程	倍	0.74	0.86	0.84	0.83	0.81	
		後期課程		2.00	2.07	2.20	2.00	1.53	
指標7	入学者に占める一般入試入学者の比率	前期課程	%	52.9%	48.6%	65.4%	57.1%	35.3%	・5/1現在 ・一般入試入学者数÷入学者数
		後期課程		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
指標8	収容定員	前期課程	名	60	60	60	60	60	・5/1現在
		後期課程		9	9	9	9	9	
指標9	在籍学生数	前期課程	名	46	56	63	54	46	・5/1現在
		後期課程		25	23	18	15	12	
指標10	収容定員に対する在籍学生数比率	前期課程	%	76.7%	93.3%	105.0%	90.0%	76.7%	・5/1現在
		後期課程		277.8%	255.6%	200.0%	166.7%	133.3%	